

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家		
所在地	名古屋市熱田区一番三丁目8番25号		
自己評価作成日	平成27年 8月 2日	評価結果市町村受理日	平成27年 9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2390900039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年10月1日、開設5周年となります。試行錯誤、手探りの毎日でした。スタッフも利用者様も様変わりしました。年々ご利用者様の高齢化がすすみ、またADLの低下により入院、退去に至る方々もお見えになります。主治医、訪問看護師等との連携さらに密にしてご利用者様の健康管理を図り健康で楽しい施設生活を過して頂ける様日々努力してまいりましたが、やはり歳には勝てず、入院、退去に繋がってしまう今日この頃です。それでも施設生活を楽しく過して頂ける様レク、外出支援の導入、又5周年記念には近隣の保育園の園児たちによる慰問等計画しております。ご利用者様の笑顔が見られると思うと、心が癒されます。健康と笑顔の絶えない様スタッフ一丸となるお世話を目指してまいりたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から5年が経過し、利用者の高齢化が進んでADLが低下してきた。ADLの低下を防ぐために、散歩も含めたりハビリ体操に『力』を入れている。
単なるホーム生活だけでは利用者もつまらないので、スタッフは『行事』を充実させて楽しんでもらう事を目指し、レクレーションや外出に『力』を入れている。
日常生活の入浴では、利用者の生活習慣や意向を尊重し、毎日一人ずつゆっくり入浴してもらっている。この事は家族アンケートの記述欄で、『毎日風呂に入れてもらえる』と称賛の言葉を頂いている。
この様に、ホームの目標である『いつも笑顔でこんにちは、楽しく過ごそう毎日を、ゆっくりお世話いたします。』を、日常生活の中で実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本部より「理念、方針、目標」などの定期指導があり管理者を通し職員一人ひとりに共有することで適切なサービス提供に努めている	法人理念を展開したホームの目標『いつも笑顔でこんにちは、楽しくすごそう毎日を、ゆっくりにお世話しましょう』を事務所・リビング等に掲示している。職員の目標は職員紹介の写真に併記している。	ホームの目標は周知されているので、ホーム目標をより身近にする為にも、ホーム目標を展開した『ホームの年度目標』を掲げ、具体的実践に結びつけて行く事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の際のあいさつはもとより町内の協力を得て花見の実施や地域の幼稚園との交流も計画している	神社の清掃等は、月1回の当番を割り当てられている。秋祭りでは子ども獅子が立ち寄り、利用者が『おひねり』出して楽しんでいる。認知症を持つ家族会では講師を引き受けるなど、地域の中に溶け込んでいる。	認知症ケアや関わり等について、地域の方々に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議の場で施設の取組、認知症への理解を地域に配信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長をはじめ近隣住民、ご利用者様やご家族様、行政の方々にも参加を求め施設のより良い運営に活かしている	いきいき支援センター職員・町内会長・オブザーバー(議題に合わせ消防・保健所・歯科医等)・利用者・知見者・管理者参加の下で、運営推進会議が年6回開催され、ホーム運営に有効に活かされている。	家族の参加を促し、会議内容の充実を図り、会議で出された意見をホームの課題として受け止めて継続検討し、結論を出す会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所に於いての家族の会の参加、講演、また、いきいき支援センター、区役所、保護係とも日々連携を取っている	区との連携で生活保護受給者の対応に前向きに取り組む、行政との信頼関係を構築している。いきいき支援センターとの交流により、ホームの状況は役所窓口で理解されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為を理解したうえでご本人様の身体に危険が生じようと思われる場合のみ一時的に拘束に繋がる場合があるがご家族様、職員で話し合い最善のケアを実践している	管理者・職員は身体拘束の弊害を十分に理解しているが、幹線道路に近く危険なので職員の手薄な時間帯や不穏利用者のいる時に限って施錠する事もある。利用者が出て行きたい時は一緒に付き添い、気分転換出来る様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や講習、また外部の勉強会に参加して学ぶ機会をもち職員、かかりつけ医、ご家族様などと連携しご利用者様の細かい変化や訴えに注意し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に講習や研修に参加し学ぶ機会をもち施設では必要性がある方には権利擁護制度を利用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際重要事項説明書において説明し理解して頂ける様努めている、ご本人様、ご家族様に納得して頂き同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様並びにご家族様からは随時、要望等傾聴し出来る限り反映している、また年に数回食事に関するアンケートを実施している	毎月1回手紙にて施設・利用者の状況を伝え、家族の訪問時に、管理者・職員は意見・要望を聞いている。『携帯を持たせてほしい』との要望は、トラブルも考えられるので、使用は居室内に限って認めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案を募ったり本部より担当者が聞き取りに来設する事によって聞く機会を設けている	管理者は日頃から職員の意見・提案を聴く機会を多く持ち、職員は意見を出し易い環境にある。『ホーム横の空きスペースにベンチ・プランター菜園を設ける』は、職員からの提案が具体化された事例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて「よろず相談所」を設けており、就業環境の整備を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修、また外部研修の参加を促し、会議などで発表し共有することで施設全体でのスキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に管理者が代表となって熱田区グループホーム連絡会に参加して相互の交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1でお話を聞く機会をもうけ、思いに傾聴むける		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設された時にご利用様様の日常をお知らせしたり要望をお聞きしたり、向き合うことをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の今を感じ取り少しでも良い方向にむかう様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の能力、残存機能にあった家事の手伝いなどして頂ける様声掛けをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を月に一度、お手紙でお知らせしてご家族様と共に支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来設された時、気持良く迎え、また来て頂ける様努めている、帰られた後にご利用様様と来設された方のお話を傾聴しまたお話をさせて頂く	馴染みの関係が途切れない様に、友人・知人がゆっくり寛いだ時間を過ごせる雰囲気作りに努めている。帰られた後に利用者と、訪問客との話題の概略を話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活であることを知って頂き日々一緒に楽しく生活できる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去になられた場合でも病院に 出向き話し相手をしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを大切にして気持ちに沿った支援に努めている	日常の食事・散歩・入浴時等の眩きから思い・意向を掴み、カンファレンス等で取り上げて職員間で共有している。余り喋らない利用者にも寄り添い、些細な仕種から思いを受け止め、支援に活かしている。	利用者に輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・新聞・雑誌・ポスター・スターの写真等)を積極的に提示し、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴、病歴、食生活を把握しケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の状態、心の状態の変化など把握できる様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの実施、関係者などの意見を参考に支援している	計画作成担当者が、見直しの際に必ず聴き取りを行い、計画が利用者・家族本位に立案され、日々の支援に活かされている。家族アンケートからも、介護計画が家族に分かりやすく説明されている事が読み取れる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな小さなことでもご本人様のことは記録にし職員全員が共有し支援している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況によっては受診、買い物等に付き添う支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源と関係して社会に参加出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの資源(主治医)を使つての生活の潤い楽しむ支援を行い、スケジュール表による医師との関係、看護師の訪問による生活の支援、笑いのある楽しい日々を生活出来る様支援している	提携医が毎日来て一人ずつ診察し、月1回は全員看ている。毎日往診があるので、少しでも調子の悪い利用者がいればその場で相談することができ、利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の毎日の情報を医療等と共有し生活を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度の状況に体調不良が発生したらすぐに主治医に連絡を入れる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医への相談、ご家族様との話し合いを行い連携を取りながら支援している	法人としても看取りを推奨しており、管理者も『終末期をホームで迎えたい』と言われたら相談にのる思いはある。提携医も24時間対応であり、家族・本人の望む限り対応出来る体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアル対応を各自理解し、実践に繋げている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害時の避難訓練の実施、地域の警察署、消防署等の講話を頂き冷静な対応を心掛けている	春・秋の年2回、避難訓練を行っている。秋の訓練では津波対応避難訓練を行った。避難には十分時間があるので1号館から2号館の誘導避難を行い、放送合図から避難終了点呼まで8分かかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し丁寧な対応を忘れずに接し、一人ひとりに言葉をかけ信頼を築き笑のある楽しい生活出来る様支援している	利用者に対し、人生の先輩としての尊敬の意を忘れず、丁寧な言葉かけをする事を心がけている。又、利用者は好きな事を話されるので、出来るだけ良く聞いてあげると、皆喜んでくれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様、ご家族様の要望を忘れずに自己決定出来る様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人それぞれのペースを確保し尊重する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の尊厳を尊重しその人の好きな事、出来る事が出来る様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いて頂いたり食器の後片付など一緒にお手伝いして頂けるよう支援している、またご利用者様の嗜好品など把握して食事を提供している	毎年嗜好調査を行い、刺身や職員の握った寿司等利用者の好きな物を提供している。毎月法人より行事食(刺身・鰻・3食丼等)の提供がある。利用者の『力量・希望』により、配下膳、食器洗い・拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時、水分補給を行い栄養のバランスなどに気配りできるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事後の歯磨き、うがい等で口腔内の清潔の保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導を行うことにより失禁を少なく成るよう支援している	自立した排泄が出来る様に、利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。排泄の仕種を見逃さず、誘導を行い、完全オムツからリハパンへ、重度の利用者も反動的にトイレで出来る様に改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり食事でも繊維質の多めのものを取って頂いたり工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調不良、行事等が無い限り毎日入浴出来る様支援している	入浴は毎日一人ずつゆっくり入る配慮をし、生活習慣や意向を尊重し、夕食後に入る利用者もいる。季節により菖蒲湯・ゆず湯等入浴を楽しむ配慮もされ、家族アンケートに、『毎日入浴・・・』と称賛の言葉もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度調節への気配り、換気など快適で過せる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬ミスをなくするためダブルチェックを行う、ご利用者様の体調変化があれば主治医に連絡し指示を仰ぐ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、家事、歌、体操など楽しみごとを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーションなどは出来る限りご利用者様の希望を基に考え実施している、毎日の散歩も行い地域の方々へ合えば挨拶もして交流を図っている	日常的な散歩の他に、天気が良ければ家庭菜園の前のベンチでの外気浴や喫茶店・買い物、近くの公園等への外出がある。職員は現状に満足する事なく、出来る限り外出の機会を増やそうとの思いが強い。	家族アンケートでは最も厳しい評価を受けている。家族の望む外出支援と家族の現状認識にズレが感じられる。利用者の外出状況を、より理解しやすく伝える工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設で金銭管理を行いご利用者様から買い物希望があれば職員同行、または代行にて買い物物を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりができる様職員が支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の掃除など行い清潔を保ち、壁には毎月ご利用者様と一緒に作品作りを楽しんで頂くよう支援している	食堂を兼ねたリビングは落ち着いた雰囲気 で、壁には『あさがお』等の季節感溢れる貼り絵が飾られている。台所のキッチン是对面式で、職員が食事の準備をしながら利用者とお喋りをする和やかな雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファなどで気の合ったご利用者様同士で会話が出来る様支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の持ち込み家具、持ち物は配置をご本人様とご家族様を交えて配置対応している	箆笥・鏡台・仏壇・遺影・テレビ・椅子等、思い出の詰まった家具・調度品・写真等を持ち込んでいる。自宅と変わらない雰囲気の居室、余り飾らない居室等、個性豊かな居室は利用者の生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれご利用者様にあった環境作りを行っている、安全に生活できる様障害物がないか気を付けている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家		
所在地	名古屋市熱田区一番三丁目8番25号		
自己評価作成日	平成27年 8月 2日	評価結果市町村受理日	平成27年 9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2390900039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年10月1日、開設5周年となります。試行錯誤、手探りの毎日でした。スタッフも利用者様も様変わりしました。年々ご利用者様の高齢化がすみ、またADLの低下により入院、退去に至る方々もお見えになります。主治医、訪問看護師等との連携さらに密にご利用者様の健康管理を図り健康で楽しい施設生活を過して頂ける様日々努力してまいりましたが、やはり歳には勝てず、入院、退去に繋がってしまう今日この頃です。それでも施設生活を楽しく過して頂ける様レク、外出支援の導入、又5周年記念には近隣の保育園の園児たちによる慰問等計画しております。ご利用者様の笑顔が見られると思うと、心が癒されます。健康と笑顔の絶えない様スタッフ一丸となるお世話を目指してまいりたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの目標、理念を掲示すると共に、毎週月曜日の朝礼と毎月の職員会議を利用して理念の共有を図り実践に繋がっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会との連絡を密にして町内行事(清掃奉仕)等への参加、また施設行事への参加を案内している、名古屋市子供会連合会の記念事業への協賛も行い交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症患者を持つ家族会にて支援センターでの講演等に出向いたり、施設行事の開示参加等認知症への理解に繋がっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、高齢者の交通安全、食中毒対策、行政の力をお借りして講話、意見の交換の場を作りサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所、いきいき支援センターと情報交換を密接にし協力してケアサービスの向上を図っている、また、区のグループホーム連絡会を通じて情報の共有、連携を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(身体拘束ゼロ)身体拘束を防ぐための基本的ケアについては本部資料、マニュアル、書籍、等を使用して研修を重ね、理解、実践に繋がっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の安全、利用者本位を常に念頭に心理的等を含め互いに虐待のないケアを目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、身元保証(NPO)等活用して判断能力の低下した方々の尊厳を守る為法制度を学び利用する事の必要な方々を支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には重要事項説明書にて説明を行いご家族様の疑問、不安を傾聴し要望に応えられるように努めている、介護保険法改定の際にも随時連絡してご理解して頂くように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、ご利用者様から意見や要望表せやすい機会を設けるなど接遇に努めて、頂いた意見は真摯に受けとめ運営に活かしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、必要とあれば随時業務カンファレンスを開催し円滑な運営への意見や提案を繁栄させている、また、事業本部には、介護疑問、給与110番等設置されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員よろづ相談所の開設によりアドバイザーが訪問して就業環境の整備に努めている、また給与水準についても処遇改善が行われている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では毎月の研修課程等、研修課程等充実されている、また市町村主催の外部研修等にも参加して頂いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	随時同業者、病院、施設等に営業訪問し交流の機会を作っている、またグループホーム連絡会にも所属し意見交換、情報の共有に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく入所当日に居室にて生活歴を話題にゆっくり話をする時間を作り本人の不安や要望を聞き取っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から家族の困りごと、不安要望を傾聴し、信頼関係を築くよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況について常に分析しその時必要としている支援を提案し利用について家族と共に考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護される立場にならない様暮らしの中で「必要とされている」と感じられる生活を提案している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切に出来る様利用者様の状況について連絡を密にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方々が気軽に来設出来る様レクリエーション、行事への連絡、お誘いしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が自然に関われるよう職員がレクリエーションを工夫、交流を企画している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も良好な関係を保つため、相談、支援を行う様努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での一人ひとりの思いや意向を会話を通じて把握するよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集のため本人、家族様より生活歴など傾聴させて頂き、記録にて全員が把握できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活でその方に合った生活リズムに添えるよう努めている、体調の変化などむ見逃さない様心がけ、職員間での情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスや職員会議を開きご家族様の要望や意見も組み入れ職員間の意見なども反映しながら介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、詳細記録に記載し情報の共有をするために、報、連、相を徹底することによって日々のケアに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況変化に応じた対応をする様こらがけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を有効的に活用できる環境作りに努め、ご本人様の持てる力が発揮できる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、順番にお一人の往診、また月一回の全員の往診にて対応、その他専門医受診についてはご家族様と協力し行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて、報告、相談、指示して頂いたり軽微な処置などを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供はもちろん、入院中の訪院、洗濯物など持ち帰ったりご家族に変わって必要なものを届けたりしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医への相談、ご家族様や職員で十分な話し合いを行い地域の関係者とも連携を取りながら支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習を受講し取得、施設内で救急対応のマニュアルを作成し話し合う機会を設ける等して対応に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに基づき年2回消防署署員の指導のもと設定を変えて防災訓練を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生き方や趣味などの話題提供し自尊心を大切にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服を選ぶ楽しみ、入浴等の自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースでご自宅で過されていた生活により近づけて施設生活を提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容等活用している、ご本人様が好きな衣類を選択できる様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い食べたいものなど傾聴し支援している、また準備、後片付けなど出来る方にはお手伝いをして頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分補給にて脱水症状には特に注意を払っている、散歩後、入浴後も水分補給を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後歯磨き、うがいを行う、口腔洗浄液等も使用して口腔内の清潔の保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し失禁等をへらし、トイレ内における排泄に心がける		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物と水分補給による工夫を行い排便パターンに気お付け主治医の指導のもと便秘薬の服用も考えスムーズに排便が出来る様心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている、入浴の順番等にも気を配り気持ちよく入浴して頂ける様努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度調節等行い室温等に気を配り居室での休息時間を持てるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いよう、ご本人様に間違いなく服用して頂くよう声掛けにて確認している、一人ひとりの体調を把握し変化のあるときは主治医に連絡を入れている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食レク等楽しんで頂ける様支援している、また、ご本人様の出来る範囲内で家事への参加で活力をもって頂ける様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの飲食店に出掛けたり、お宮さんへの散歩等の機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが希望があれば職員同行または代行にて買い物の支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解を得て電話等出来る様支援している、ご家族様からの電話にも随時対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に合わせた室温設定をしている、壁面ボードの飾り付けをご利用者様と一緒に作成している、毎月季節感を替え実感して頂いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファアにて気の合ったご利用者様同士で会話出来る様支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様、とご本人様の意見を傾聴し持ち込み家具などの位置など柔軟に対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の状態に合わせた環境作りを行っている		